

旅行取扱状況の概観（平成 19 年 5 月分）

海外旅行の取扱額では、団体旅行は学生団体旅行が取り扱い好調で前年実績を大きく超えたが、一般団体の取り扱いが前年実績を大幅に下回ったため、合計では前年実績を下回る結果に終わった。企画旅行では、ホリデイの取り扱いが大きく落ち込んだため、合計は前年実績を大幅に下回り、前月に続いての前年比マイナスとなった。個人旅行は、航空券の取り扱い好調により 2 ヶ月ぶりの前年比プラスと回復した。海外旅行合計は、団体旅行の低調、企画旅行の不振により前年比 92.3%と 13 ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

国内旅行の取扱額では、団体旅行は、一般団体、学生団体共に取り扱い件数が増加し前年実績を超えたため、合計は 2 ヶ月ぶりの前年比プラスとなった。企画旅行は、メイトの取り扱いが低落したため、合計では 5 ヶ月ぶりに前年を割り込む結果に終わった。個人旅行では JR 券、宿泊券は伸び悩んだが、航空券、その他クーポンの取り扱い増により、合計では前年実績を上回り、堅調であった。国内旅行は、企画旅行の落ち込みを団体旅行、個人旅行がカバーし、合計では前年比 101.6%と前年実績を上回った。

外国人旅行は、個人旅行の取り扱いが好調を維持し、前年比 151.9%と 7 ヶ月連続の前年比プラス。

5 月の総取扱額は、国内堅調、海外不振、外国人旅行好調で、前年比 98.7%と前年実績に達せず 5 ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、取り扱い件数の鈍化に前年取り扱い好調の反動も加わり前年実績を大幅に下回った。一方、学生団体は、修学旅行の取り扱いが増加し大きく前年実績を超えた。団体の方面別取り扱いでは、ハワイの好調が目立った程度で、近場は韓国を除き前年実績を下回った。

(2) 企画旅行

ホリデイは、取り扱いの伸びが鈍化しゴールデンウィークの取り扱いも低調で、取扱額前年比 84.2%、取扱人数前年比 83.8%と共に前年実績を大幅に下回り、取扱額では前月に続いての前年比マイナスとなった。ホリデイの方面別取り扱いでは、韓国、台湾、インドネシアが目立った程度で、中国も一時期の勢いが失われている。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント関係の取り扱いが大幅に増加したため前年実績を上回り 2 ヶ月ぶりの前年比プラスと回復。学生団体は、主力の修学旅行の取り扱い増加、校外学習等の取り扱い堅調により、前年実績をオーバーし好調に転じた。

(2) 企画旅行

メイトは、ゴールデンウィークの取り扱いが低調で、その後も取り扱いに伸びが見られず、取扱額で前年比 97.1%、取扱人数で前年比 96.5%と共に前年実績を下回り 5 ヶ月ぶりの前年実績割れとなった。商品別の状況は、北海道、東京地区商品が前年を上回った程度であった。